令和８年度　第１回　摂津市立男女共同参画センター運営委員会　要点録

日　　時：令和８年７月 27 日(月)午後２時～午後３時 15 分
場　　所：摂津市立男女共同参画センター　交流室
出 席 者：摂津市立男女共同参画センター運営委員６名
事 務 局：人権女性政策課　職員２名　活動専門員１名　女性相談支援員１名
案　　件：(1) 令和７年度事業報告
　　(2) 令和８年度事業計画
　　(3) その他
配布資料：・資料１　令和７年度事業報告書
　　・資料２　令和８度摂津市立男女共同参画センター事業計画
　　・資料３　男女共同参画市民企画協同事業チャレンジ企画事業決定について
　　・講座チラシ等２種

案件(１)令和７年度事業報告
【利用状況・事業内容】
・交流室利用件数合計は 398 件。11 月はイベントの準備、2 月・3 月はフェスタの準備などで件数の増加。
・子どもの一時保育は、延べ 72 人で、前年度から減少。30 代の講座受講が 6 ポイント減少していることも要因。子育て世代の講座受講を促すため、引き続き実施する。
・「男女共同参画セミナー」は、「ウィズせっつカレッジ 2025」の入学記念講演を兼ね、82 名の参加があった。この入学記念講演を皮切りに、「ウィズせっつカレッジ 2025」を開催し、延べ 160 人が参加、修了生は 12 名であった。そのうち２名が「女性人材登録制度」に登録した。
・「ココロをつなぐヒストリー」は男女共同参画推進団体「ハート to ハンドメイドの会」に 17 年間の歩みとＤＶ防止啓発のタペストリーに込めた思いを語っていただいた。団体の活動内容や女性に対する暴力防止への強い意識を理解する機会となり、女性に対する暴力は自分には関係のない問題ではなく、身近でも起こりうるものであると気づき、自分たちに何ができるのかを考えるきっかけとなった。
・チャレンジ企画として審査を経た 2 企画を男女共同参画センターと協働で実施。「つながる朗読」では講座を通して朗読の魅力に触れ、その後団体へ新たに２名が入会するなど、今後の活動につながる貴重な機会となった。「ストレスをみかたにしよう！」では、グループワークで参加者同士がさまざまなコーピング方法を共有し、交流を通した学びの場となった。また、パステル画を用いたアートセラピーを実施し、作品づくりを通して達成感や自己肯定感に繋げ、リラックスしながら自分自身と向き合う機会となった。
・ジャンプ企画の「go＝en のハンドメイド教室」は参加者にハンドメイドを楽しんでもらいながら、団体のスキルアップも目的に実施。令和６年度は１回の講座であったが、令和７年度は全 10 回実施。
・「ウィズせっつフェスタ 2026」開催に向け、各団体へのヒアリングを実施。企画会議は３回実施し、フェスタの趣旨や目的を改めて共有しながら意見交換を行った。
・「交流会」では男女共同参画に関するミニ講座を実施するとともに、他己紹介を通じて団体同士が互いの活動を知る機会を設け、フェスタに繋げた。

【アンケート結果】

・受講者の男女比は、女性が 81%、男性が 18%で、男性が昨年度より 2 ポイント増加。
・年齢の割合は、昨年度より 30 代 6 ポイント減、50 代 5 ポイント増、60 代 8 ポイント増。
・住所は昨年度より安威川以南で 4 ポイントの増。
・参加回数は、「はじめて」が昨年度より 9 ポイントの減。一方で満足度が高く継続して受講するといった側面もある。

【団体の活動支援】

・男女共同参画推進団体の交流会は、団体相互の交流を深める場として 7 月に実施。
・男女共同参画推進団体登録説明会は 1 月に行い、審査を経て 3 月に令和 8 年度の登録団体を決定。

【情報】

・令和 7 年度末現在の蔵書数は 4,008 冊。視聴覚資料は 169 本。
・「セミナーガイド」を毎月発行。「ウィズ通信」34 号の発行。
・図書の貸出数は前年比約 22%の増で、新規図書登録者数は約 21%増。

【相談】

・女性のための相談事業として、ウィズせっつ女性のための相談室を運営。
・DV を含む女性のための様々な悩みについて相談員が電話や面談を行う総合相談、フェミニストカウンセラーが心の悩みの相談に応じるカウンセリング、女性弁護士が女性の立場から法律上の問題に応じる法律相談の 3 形態で実施。
・総合相談件数は 814 件。「精神問題」が最も多く全体の約 33%、「人間関係その他」が約 15%、「夫等暴力」が約 14%、「離婚問題」が約 8%と続く。
・総合相談は昨年度より約 8%減少、カウンセリングはほぼ同数、法律相談は約 14%の減。
・大阪人間科学大学では、デート DV 防止ユースリーダー養成講座を 4 回実施。

【質疑】

（委　員）カレッジ選択講座のマネープラン関連講座の参加者が少ないが、何か要因はあるか。
（事務局）マネープラン関連講座をカレッジ選択講座として 3 講座設けたが 1 講座を除き、内容に関心がない、あるいは対象が子ども向けということでカレッジ参加者の年齢層に合わなかったことが要因として挙げられる。一方でカレッジ選択講座は一般の参加も可能で、全体としては多くの参加があった。
（委　員）女性人材登録制度はどのように運用されているか。
（事務局）各分野で活躍する女性の情報を名簿に登録し、その情報を各課に提供することで、市の審議会等の委員への女性の登用を促進する制度。令和 7 年度には名簿に掲載されていた過去のカレッジ卒業生が、審議会の委員として 1 名委嘱された。担当課からは、現在も活躍されているとお聞きしている。
（委　員）カレッジを修了した方が、再度カレッジを受講することは可能か。

（事務局）可能。以前はリピーターの高齢の方が多かったが、ここ最近は年代が入れ替わっている。

（委　員）チャレンジ企画の 3 回連続講座の 1・2 回目は座学で、3 回目は実技のアートセラピーであるが、3 回目の参加者が少ない要因はあるか。

（事務局）1・2 回目の講座はグループワークを多く取り入れながら座学を実施した。この講座に限らず 3 回目の参加者は少なくなる傾向はある。今回は、チャレンジ企画の団体が他の日程でもアートセラピーを実施しているため、そちらで受講するといった方がいることもお聞きしている。そういう意味では団体活動の広がりにも繋がっている。

（委　員）実際、自身が市民として参加している講座でも、話し合いやポジティブに関わることに躊躇する人が多いと感じている。受け身の学習の方が、ハードルが下がるという側面もある。

（委　員）パネル展に関し、参加人数をカウントして経年で比較できれば、より良いパネル展になると思う。

（事務局）アンケートの数字ではないが参加型のパネルにメッセージを書いていただき、また、皆さんにメッセージを見ていただくことでパネル展に対する反応を見ている。推進団体から展示方法や内容に関する意見を集約し、次のパネル展に生かしている。

（委　員）ハンドメイド教室の参加者がゼロの日、また、男性が 1 名参加されているが何か要因はあるか。

（事務局）この回が別の日と特段違う内容ということではない。夏休みの 8 月に 2 回の講座を計画したが、参加者がゼロの日は 8 月 2 回目の講座であり夏休み後半であったこと、他の講座と重なっていたことが参加者ゼロの要因かも知れない。男性の参加に関しては、当日教室を見て関心を持たれた方に団体がお声掛けして参加となった。また、センターでの団体の活動を見た公民館や文化ホールの職員から公民館等のイベントブースに参加してほしいとの依頼があったが、ハンドメイドのブースを担当するだけに留まらず、ハンドメイドを通じて積極的に男女共同参画を発信していく活動としてイベントに参加している。

（委　員）つながる朗読の評判はどうだったか。

（事務局）朗読にジェンダーを結び付けているので、朗読に興味がある方がジェンダーについて学べる良い機会であった。

（委　員）パープルリボン＆オレンジリボンセミナーについて、定員 150 人のところ早々に定員に達したが、実際の参加者 128 人であった。当日、欠席する人を見越して何か対策できることはあるか。

（事務局）今年度の男女共同参画セミナーに関しては、定員 150 人のところ当日の欠席者も見据えて 170 人まで受け付けた。結果として 151 人の参加であった。今後も状況を踏まえ柔軟に対応していく。

案件(2)令和 8 年度事業計画について

【講座開催事業】

これまでに実施したもの

・「若年層の性暴力被害予防パネル展」

無自覚な加害の防止や被害時の早期相談の重要性について周知し、性暴力が身近な問題であり、相談先の案内や被害者を支える周囲の関わりの重要性や予防だけでなく支援につながる啓発を実施。また、参加型企画としてメッセージボードを設置。

・「男女共同参画週間パネル展」

男女共同参画センターやウィズプランの紹介、ジェンダーギャップ指数や女性の政治参画の案内。無意識の思い込みがあることに気付く「アンコンかるた」を展示。

今後の予定

・「ウィズ de クラフト」「女性の再就職・転職講座」

共に 7 月 30 日に実施予定で、「女性の再就職・転職講座」では再就職に向けた心構えと自己分析を行い、これまでの経験や強みを整理し、応募書類の書き方やよくある質問への対応など、自分らしく働くための再就職活動に必要な実践的なポイントを学ぶ。同時開催として、「ウィズ de クラフト」を実施し、廃材を利用してアップサイクルのクラフトを自由に作る。「女性の再就職・転職講座」の参加者は、未就学児のお子さんを一時保育に預け、小学生のお子さんはクラフト講座に参加することもできるといった連携を図る。

・「なぜ女性の歴史は見えにくいのか？」

来月 8 月 22 日（土）に実施予定。身近な出来事を通して現代の暮らしや社会とのつながりについて考え、参加者同士で意見交換を行いながら、地域や社会のこれからについて考える機会とする。

・「私の声からはじまる防災」

来月 8 月 29 日（土）に実施予定。地域活動の実践事例や防災に関する身近な事例を通して、女性の視点を生かした地域づくりや防災について学ぶ。講義に加えグループワークを実施し、参加者同士で意見交換を行いながら理解を深め、日常の地域活動の中に防災の視点や工夫を取り入れ、自分や周囲の人を守るための備えについて考える。

【活動・交流支援事業】

・チャレンジ企画事業は 3 団体から応募があり、審査の結果 3 企画を採用。センターと調整を行い今年度 9 月から下半期にかけて実施する。

・ジャンプ企画は現在 10 企画で、今年度から男女共同参画推進団体として登録した 2 団体も企画している。ふらっと企画は 1 企画。今後も申請があれば随時実施する。

・ウィズせっつフェスタは、啓発の展示を先行し、イベント・発表は 3 月 6 日に実施する。

・男女共同参画推進団体による交流会は 9 月 15 日に実施。意見交換を行い、各グループの発表内容はグラフィックレコーディングでリアルタイムに可視化し、全体で共有・対話を深めることで、多様な意見を今後のフェスタ運営や企画づくりに生かす。

【情報収集・提供事業】

・企画展示として、イベント週間に合わせ各種展示を実施する。

【女性問題相談事業】

・若年層への DV 予防啓発として、市内中学校等への出前講座を引き続き実施予定。

・4 月には大阪人間科学大学の新入生オリエンテーションにおいて、「デート DV」防止について講演を実施。

・大阪人間科学大学と連携したユースリーダー養成講座を 5 月から開講。

・大阪人間科学大学において、こども性暴力防止法施行に向けてジェンダー、多様性、DV、こどもの権利など、12 月から 1 月にかけて 1 年生から 3 年生に対してグループワーク等の講座を実施する予定。こどもの権利の部分については、男女共同参画推進団体が担当する予定。

【質疑】

（委　員）令和 8 年度の男女共同参画セミナーは大変盛況であり、冒頭ではセンターから男女共同参画に結び付く説明・案内をしっかりと発信し、講師も男女共同参画を意識した学びにつながる講演を行い、記念講演として大変相応しいものとなった。また、以前の運営委員会で意見のあった、労働に関する講座や子どもも対象としたクラフト講座が計画されており、委員として評価できる。

（委　員）父の育児参加が多く、積極的であると実感している。父を対象とした育児・子どもとどう関わるかといった講座を企画してほしい。

（委　員）国際ガールズ・デーのパネル展は、中学校、高校に働きかけは行っているか。

（事務局）実施場所がコミュニティプラザエントランスということで日頃から、中学生・高校生が多く、参加型のパネル展示にも参加いただいた。また、大学生がジェンダー等を学ぶ講座をパネル展に合わせて実施し、若い世代の視点・感想をいただいた。

（委　員）チャレンジ企画はセンターの特色の一つ。講師謝礼の補助等は団体活動にとって大きな後押しとなる。今年度採択された 3 団体中 2 団体は既存の団体であるが、新規登録団体からの申請はどのような状況か。

（事務局）1 団体はカレッジ修了生が集まった新しい団体。事前に今年度の新規登録団体も含め最大 9 団体から相談があったが、結果的に 3 団体からの申請となった。新規登録団体は、まずジャンプ企画やふらっと企画から始めて、来年度以降にチャレンジ企画に申請することも考えている。
また、普段、高齢者をターゲットとしている団体が、ウィズせっつフェスタにおいて、子どもをターゲットとした体験コーナーを実施した経験も踏まえ、今回のチャレンジ企画でも子どもと父をターゲットとする企画を実施する。このように団体にも変化が生じている事例もある。

（委　員）ジャンプ企画は、新規登録の 2 団体が活動を行うが、そのうち 1 団体は NPO 法人を立ち上げたのか。

（事務局）元々NPO 法人を立ち上げており、地域で活動されていたが、活動の場を広げたいとのことで新規登録に至った。中高生等の居場所を提供し、必要であれば女性相談に繋げるといった想いを持っている。7 月 21 日はセンターでの初めての活動であったが中学生 7 名程度の参加があった。

案件(3)その他

・第 2 回運営委員会の開催は令和 9 年 2 月頃の予定。